

令和3年度 後期末 人間学部

授業評価アンケート調査、学修時間等に関する報告

はじめに

本報告書は、令和3年度後期に開講された科目の内、学生による授業評価が実施された84科目についてまとめたものである。授業評価の各項目の平均得点および「全体」の平均得点について検討した。また、担当者独自が個別に設定する質問項目の評価点については、各科目間で比較できないため、本報告書では扱わないこととする。

(1) 共通教養科目

回答のあった共通教養科目に関する授業評価点について、学科ごとにまとめたものが図1（心理学科10科目）、および図2（コミュニケーション学科8科目）である。図1に示された心理学科の学生の延べ人数は165名で、各学年それぞれ1年生=58名、2年=107名であった。また、図2に示されたコミュニケーション学科の延べ人数は166名で、各学年それぞれ1年=52名、2年=101名、3年=13名であった。

昨年度と比較すると、心理学科では、1年生については、いずれの項目においても昨年度を下回り、2年生については、いずれの項目においても昨年度とほぼ同様であった。コミュニケーション学科では、1年生については、いずれの項目においても昨年度を上回り、2年生については、昨年度を上回った授業方法を除いて、昨年度とほぼ同様であった。3年生については、データ上、昨年度との比較ができなかった。

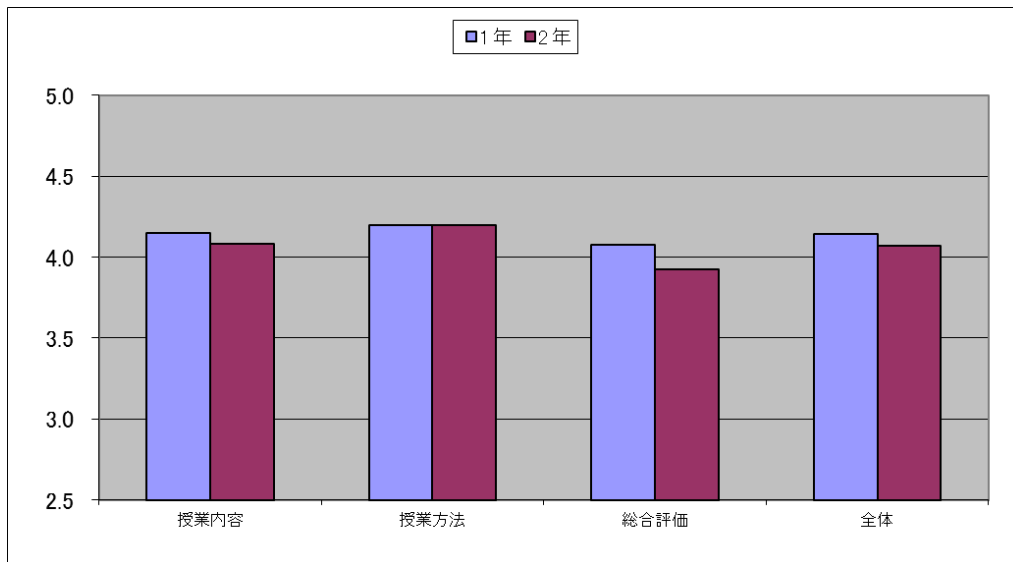


図1 心理学科の共通教養科目に関する授業評価点
延べ人数 1年=58名、2年=107名

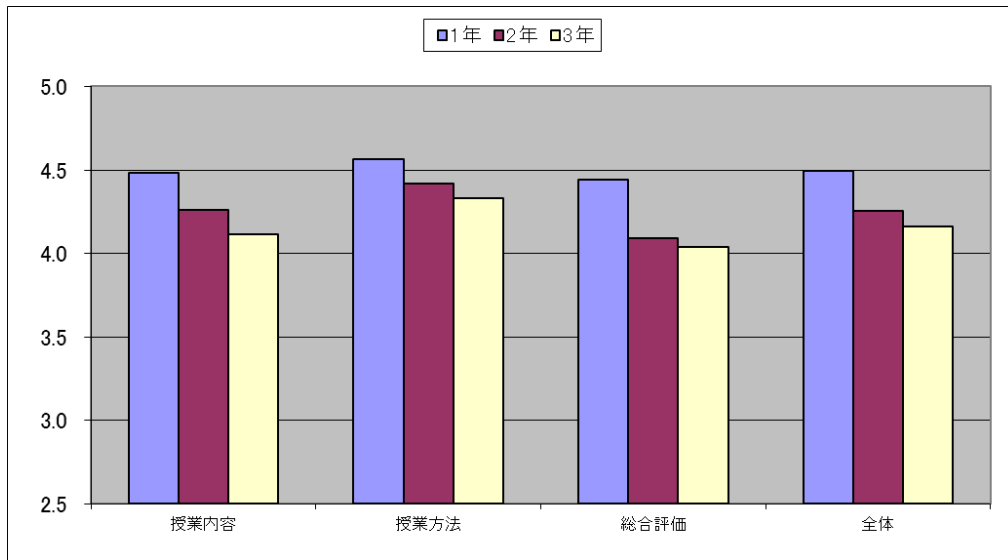


図2 コミュニケーション学科の共通教養科目に関する授業評価点
延べ人数 1年=52名、2年=101名、3年=13名

(2) 共通語学科目

回答のあった共通科目における語学科目（英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ポルトガル語）の授業評価点について、学科ごとにまとめたものが図3（心理学科10科目）、および図4（コミュニケーション学科8科目）である。図3に示された心理学科の学生の延べ人数は133名で、各学年それぞれ1年=111名、2年=22名であった。また、図4に示されたコミュニケーション学科の延べ人数は81名で、各学年それぞれ1年=61名、2年=20名であった。

昨年度と比較すると、心理学科では、1年生については、いずれの項目においても昨年度とほぼ同様であり、2年生については、いずれの項目においても昨年度を上回っていた。コミュニケーション学科では、1年生と2年生ともに、いずれの項目においても昨年度を上回っていた。

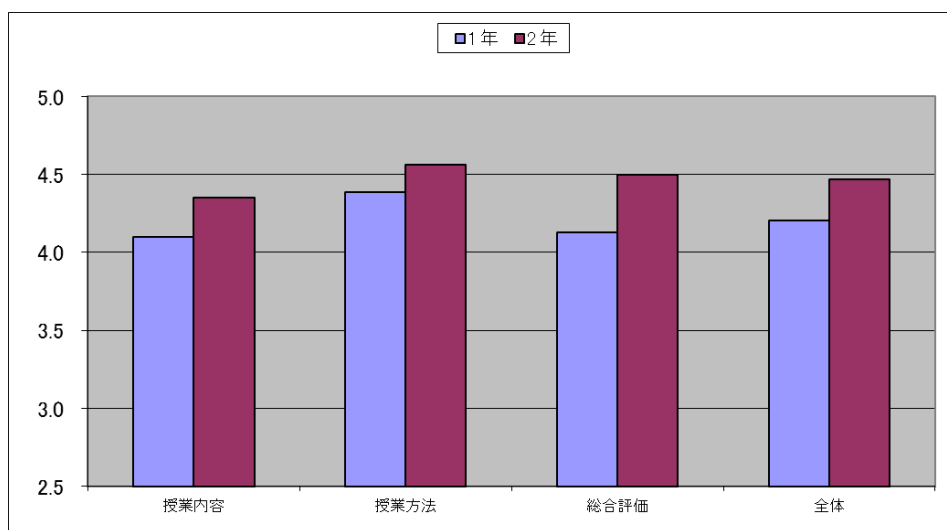


図3 心理学科の共通語学科目に関する授業評価点
延べ人数 1年=111名、2年=22名

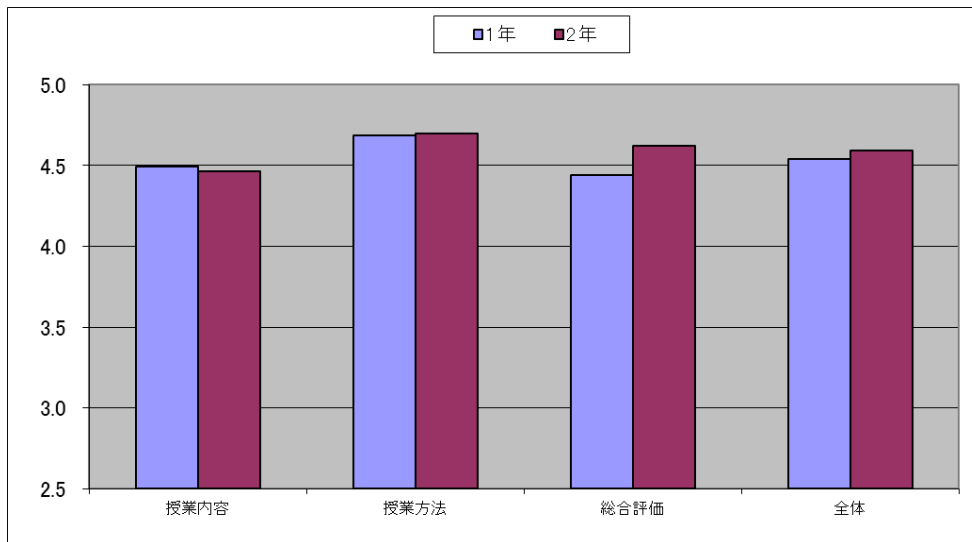


図4 コミュニケーション学科の共通語学科目に関する授業評価点
延べ人数 1年=61名、2年=20名

(3) 専門科目

各学科の専門科目（心理学科 20 科目、コミュニケーション学科 42 科目）の授業評価点について、学科ごとにまとめたものが図5（心理学科）、および図6（コミュニケーション学科）である。図5に示された心理学科の学生の延べ人数は1,133名で、各学年それぞれ1年=453名、2年=410名、3年=248名、4年=22名であった。また、図6に示されたコミュニケーション学科の延べ人数は650名で、各学年それぞれ1年=243名、2年=170名、3年=237名であった。

昨年度と比較すると、心理学科では、1年生については、昨年度を下回った授業内容を除いて、昨年度とほぼ同様であり、2年生については、いずれの項目においても、昨年度を上回っていた。3年生については、いずれの項目においても、昨年度とほぼ同様であり、4年生については、いずれの項目においても、昨年度を下回っていた。コミュニケーション学科では、1年生については、昨年度を上回った授業方法を除いて、昨年度とほぼ同様であり、2年生と3年生については、いずれの項目においても昨年度を上回っていた。

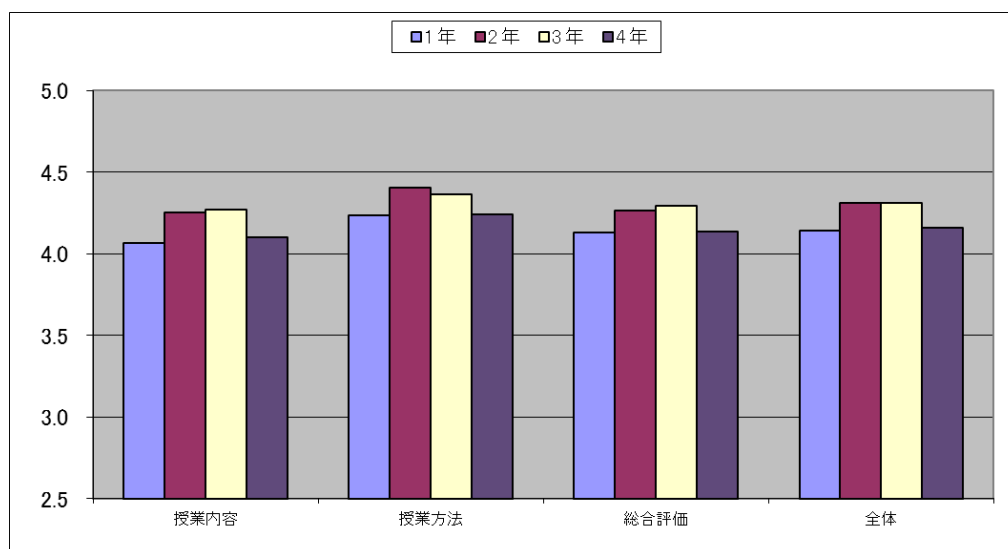


図5 心理学科の専門科目に関する授業評価点
延べ人数 1年=453名、2年=410名、3年=248名、4年=22名

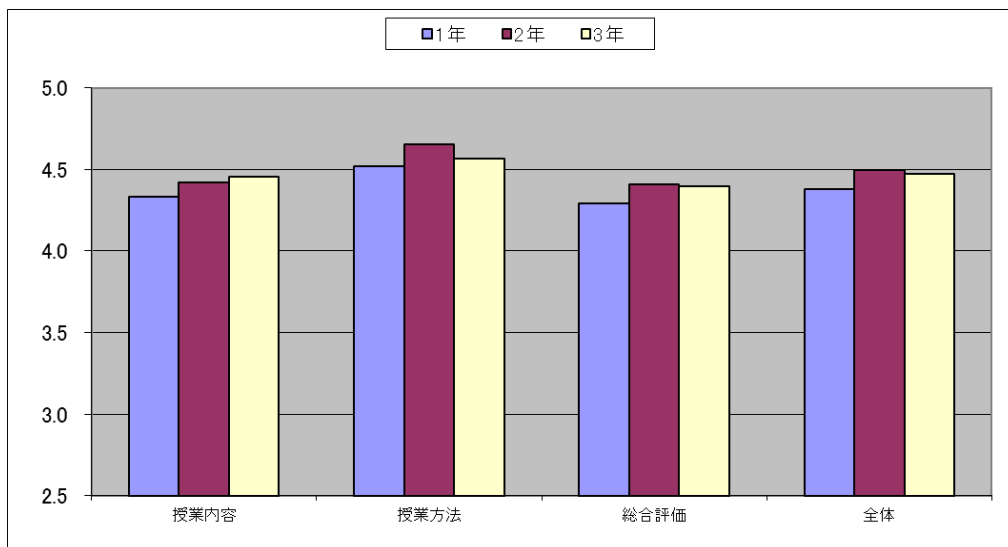


図6 コミュニケーション学科の専門科目に関する授業評価点
 延べ人数 1年=243名、2年=170名、3年=237名

(4) 共通科目と専門科目の比較

ここから以降7節まで、科目の履修形態や、教室環境など、受講生の授業意欲、態度などに影響を与えると考えられる要因について、授業評価における評価点の平均値および標準偏差を指標とした比較検討を行った。本報告書で取り上げた具体的な要因は、科目の履修形態（共通科目と専門科目、必修科目と選択科目）、科目の履修者であった。本節以降の図の作成に利用した調査対象総科目数は84科目であったが、学部共通科目10科目は両学科の学生がほぼ半数ずつ履修しているため、学科別の評価点の平均値および標準偏差を求めた関係上、調査対象から除いた。

図7は履修形態ごと（共通科目と専門科目）の評価点を学科ごとに示したものである。分類した共通科目および専門科目の数は、心理学科ではそれぞれ8、19科目、コミュニケーション学科では、9、38科目であった。昨年度と比較すると、心理学科では、共通科目においては授業方法が昨年度を上回り、その他の項目ならびに専門科目においては昨年度とほぼ同様であった。一方、コミュニケーション学科では、共通科目ならびに専門科目において、全ての項目が昨年度を上回っていた。

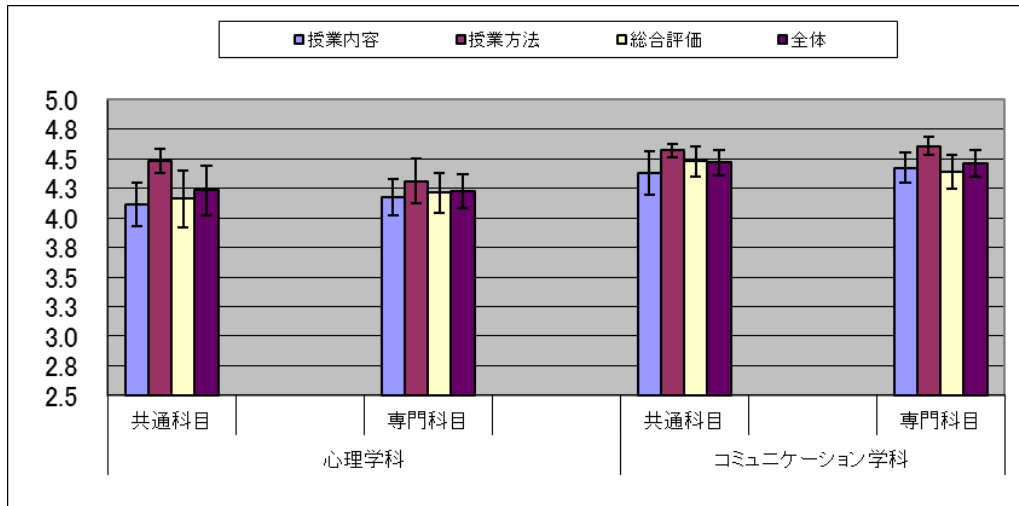


図7 共通科目と専門科目別の平均授業評価点 (±SD)

共通科目と専門科目数は、心理学科で8、19科目、
コミュニケーション学科で9、38科目

(5) 必修科目と選択科目の比較

別の履修形態ごと（必修科目と選択科目）の評価点を学科ごとに示したものが図8である。分類した必修科目および選択科目の数は、心理学科ではそれぞれ5、22科目、コミュニケーション学科では、9、38科目であった。今年度は、心理学科については必修科目と選択科目の評価はほぼ横並びであったが、コミュニケーション学科については。選択科目の評価が必修科目を大幅に上回っていた。特に、コミュニケーション学科の選択科目については、昨年度と比較しても、大幅な上昇が見受けられた。

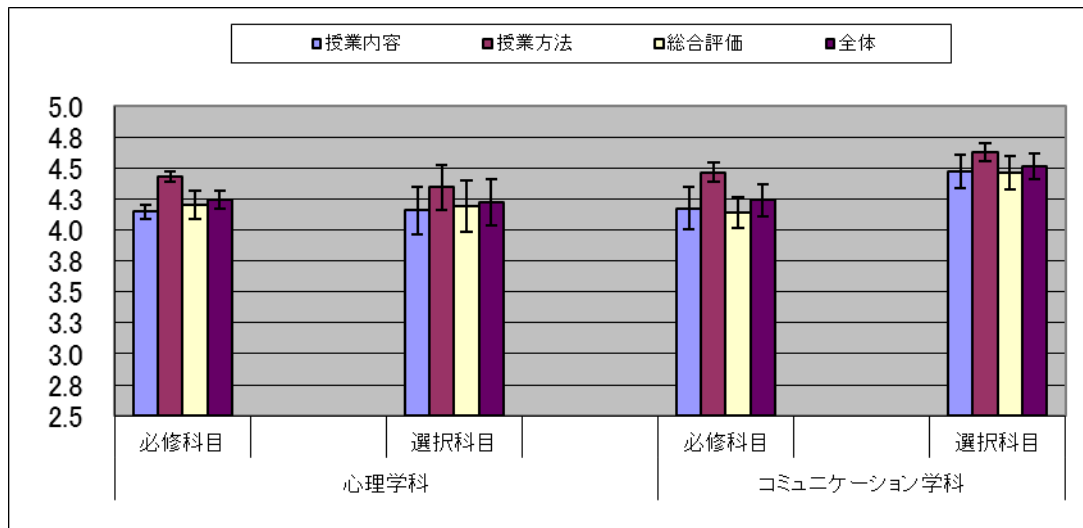


図8 必修科目と選択科目別の平均授業評価点 (±SD)

必修科目と選択科目数は、心理学科で5、22科目、
コミュニケーション学科で9、38科目

(6) 科目の履修者数による比較

履修者数（履修者が40名未満の科目と40名以上の科目）で分類した科目別の評価点を学科ごとに示したものが図9である。なお、40名未満の科目には、演習形式の授業も含まれている。

分類した履修者が40名未満の科目および40名以上の科目の数は、心理学科ではそれぞれ5、22科目、コミュニケーション学科では、34、13科目であった。

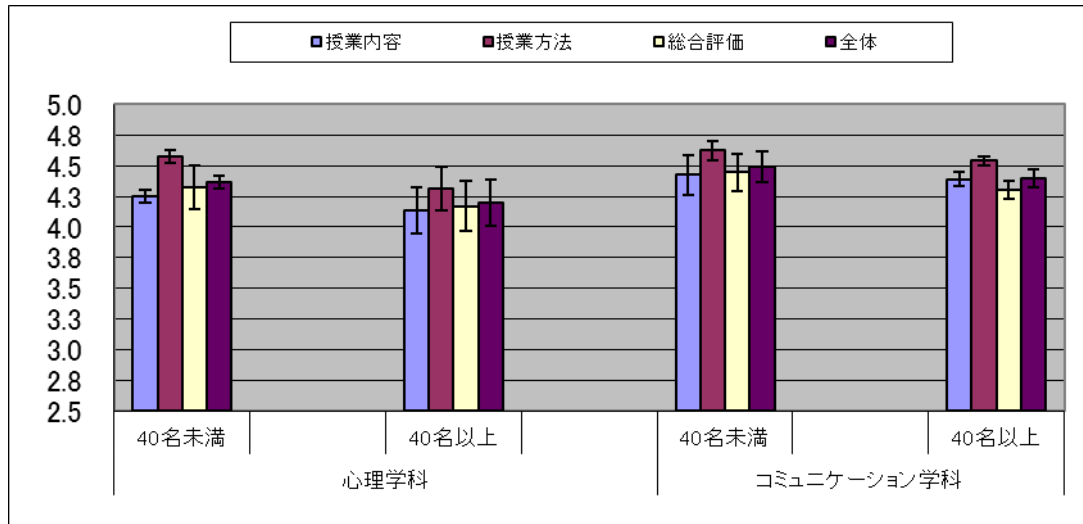


図9 受講生数による各科目の平均授業評価点（±SD）

40名未満、40名以上の科目数は、心理学科で5、22科目、
コミュニケーション学科で34、13科目

続いて、各授業科目の履修者数と「全体」の評価点との関連について、学科ごとに散布図と相関係数で示したものが、図10（心理学科）と図11（コミュニケーション学科）である。心理学科では、履修者数と評価の高さの相関は見られなかった。一方、コミュニケーション学科では、弱い負の相関が見られ、履修者数が多いほど評価が低くなる傾向となった。

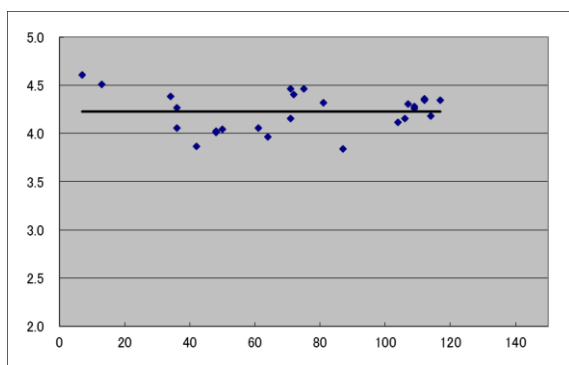


図10 心理学科 履修者数（横軸）と授業評価点（縦軸）との相関

$r = 0.00$ (n=27)

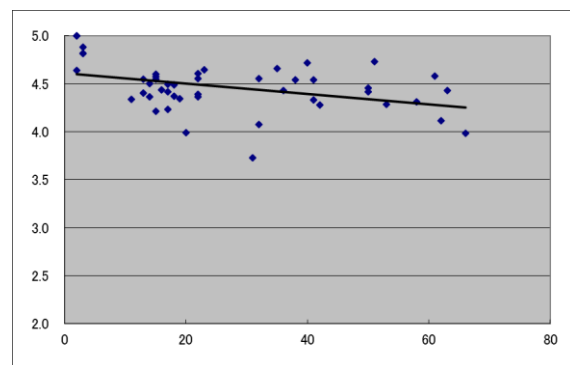


図11 コミュニケーション学科 履修者数（横軸）と授業評価点（縦軸）との相関

$r = -0.40$ (n=47)

(7) 回収率

共通教養科目、共通語学科目および専門科目それぞれの授業評価アンケートの回収率を学科ごとに算出したものが図 12 である。それぞれの科目数は心理学科が 3、5、19 科目、コミュニケーション学科が 3、6、38 科目であった。回収率については、心理学科ならびにコミュニケーション学科ともに、共通教養科目が最も低く、専門科目が最も高かった。

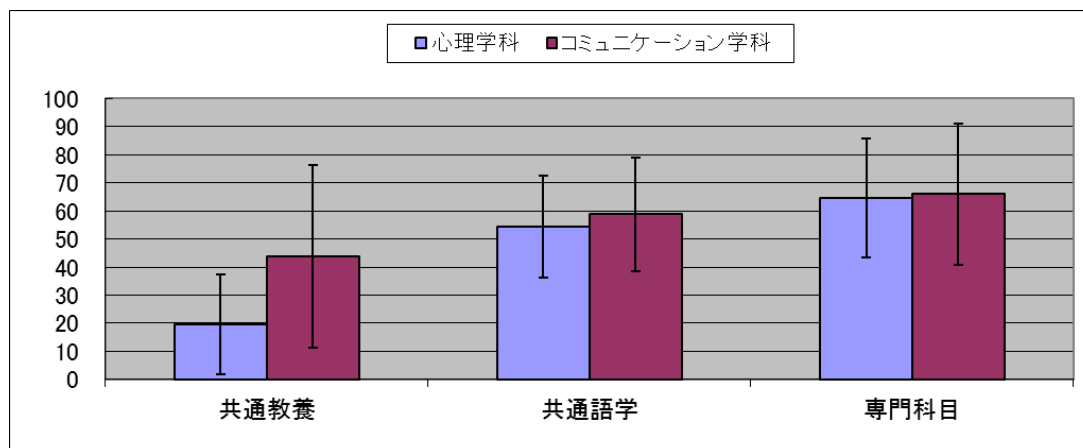


図 12 各科目の平均回収率 (±SD) (%)

それぞれの科目数は、心理学科で 3、5、19 科目

コミュニケーション学科 3、6、38 科目

(8) 学修時間と学修行動

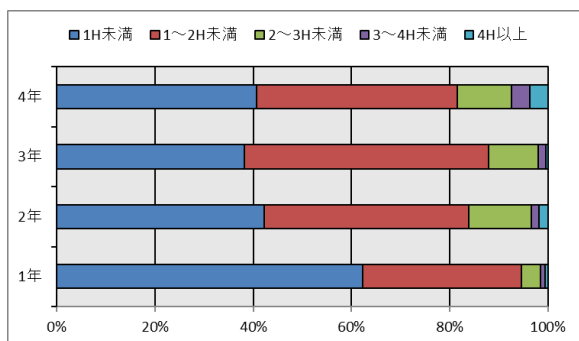


図 13 心理学科の授業外での学修時間

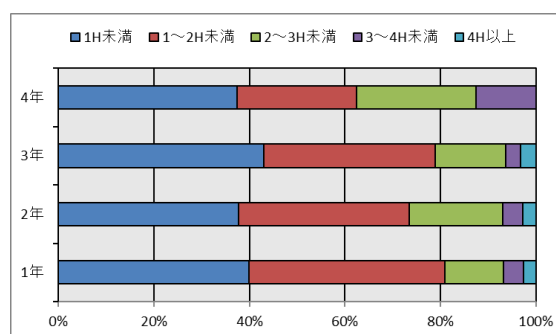


図 14 コミュニケーション学科の授業外での学修時間

各科目の授業時間以外での学修時間に関する項目について、学年別・学科ごとにまとめたものが図 13 および図 14 である。授業時間以外の学修時間とは、その授業に関する予習・復習に該当する。昨年度と比較すると、心理学科では、学習時間が 1h 未満の学生につき、2~4 年生においては昨年度とほぼ同様であるが、1 年生においては昨年度を大きく上回っていた。コミュニケーション学科では、1 年生~3 年生においては、昨年度を大きく上回っているが、4 年生においては昨年度を下回っていた。

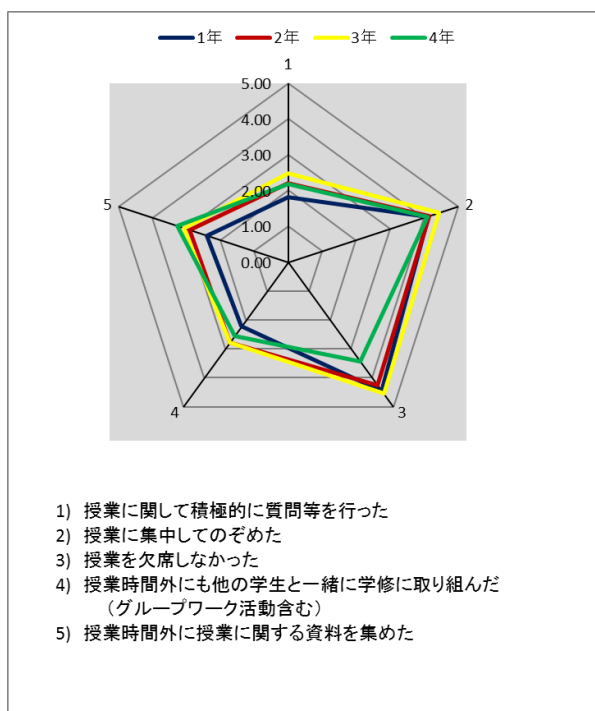


図 15 心理学科の学修行動

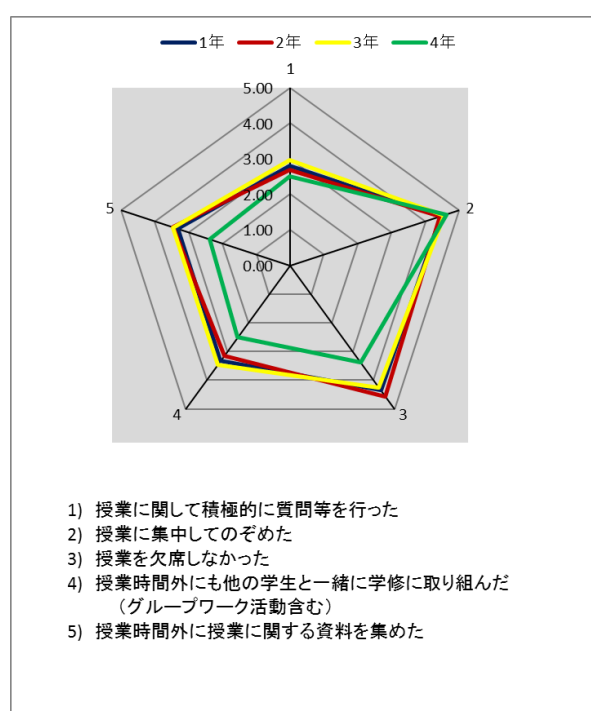


図 16 コミュニケーション学科の学修行動

続いて、各科目の学習行動における自己評価に関して、学科別にまとめたものが図 15 および図 16 である。留意点として、今年度は、質問項目を昨年度の 4 項目から、それまでの 5 項目に戻していることが挙げられる。なお、追加項目は、「4 授業時間外にも他の学生と一緒に学修に取り組んだ (グループワーク活動を含む)」である。この追加項目を除いて、昨年度と比較すると、いずれの項目についても、両学科とも昨年度とほぼ同様であり、大きな変化は見られなかった。

(報告：小川 慶)

令和3年度 後期末 人間生活学部

授業評価アンケート調査、学修時間等に関する報告

はじめに

本報告は、令和3年度後期に開講された科目の内、学生による授業評価が実施された112科目についてまとめたものである。分析の対象としたアンケート項目は、学科及び学年を問う2項目、授業及び学修に関する17項目（評価基準は1～5点）の計19項目で構成されている。内、授業及び学修に関する計17項目の設問を、以下の分類①～⑤の設問群にまとめ、各値を算出した。

- 設問群①：「授業内容」 4項目の点数合計に対する1項目あたりの平均点
- 設問群②：「授業方法」 3項目の点数合計に対する1項目あたりの平均点
- 設問群③：「総合評価」 4項目の点数合計に対する1項目あたりの平均点
- 設問④：「学修時間」 1項目（1h未満、2h未満、3h未満、4h未満、4h以上）の比
- 設問群⑤：「学修行動」 5項目それぞれの平均点

これらを学科、学年、共通科目、専門科目などの観点から算出し、図示した。なお、設問群①～③は「全体」として17項目の点数合計に対する1項目あたりの平均点を算出している。また、他の代表値を用いることで検討できることもあると考えられるが今回は平均値を利用し、特に解析も実施していないため、あくまで結果の提示に留めることとする。縦断的な理解のために昨年と比較する場合は、「令和2年度仁愛大学FD推進活動報告書」を御覧ください。

（1）共通教養科目

[健康栄養学科]

健康栄養学科学生が受講する共通教養科目（仏教関係、人間学関係、生活と環境関係、情報関係）において10科目から回答を得た（図1参照）。延べ回答人数は、1年生が102名、2年生が30名、3年生4名、4年生0名であった。3年生と4年生は回答者が10名以下であったため、規定に従いグラフから除外した。1年生、2年生ともに「総合評価」が僅かに4.0を下回ったが、その他の「授業内容」、「授業方法」、「全体」の3項目で4.0以上であった。

[子ども教育学科]

子ども教育学科学生が受講する共通教養科目（仏教関係、人間学関係、生活と環境関係、情報関係）において9科目から回答を得た（図2参照）。延べ回答人数は、1年生が55名、2年生が71名、3年生5名、4年生1名であった。回答者が10名以下の学年はグラフから除外した。1年生は「授業内容」、「授業方法」、「総合評価」、「全体」の全項目が4.0以上であった。2年生も同様に全ての項目で4.0以上であった。

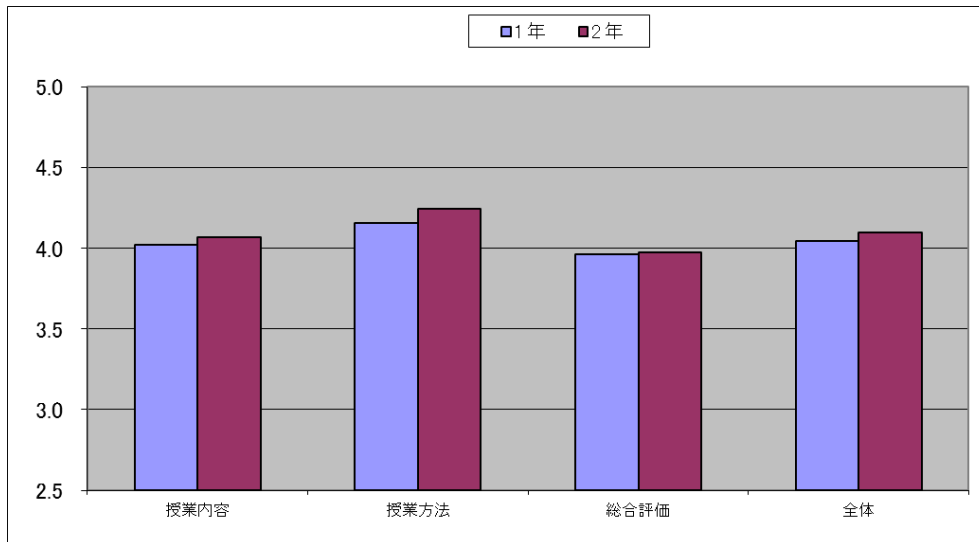


図1 健康栄養学科の共通教養科目に関する授業評価点
延べ人数 1年=102名、2年=30名

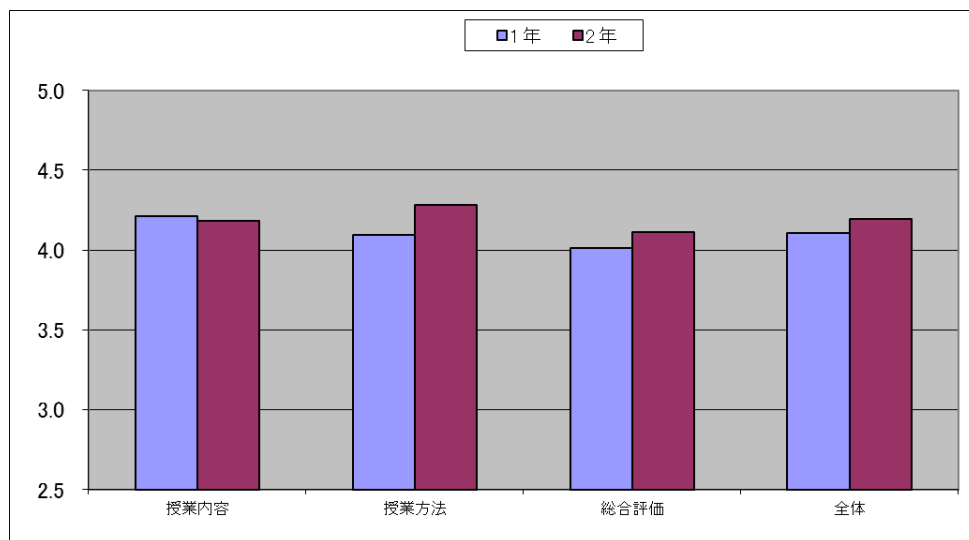


図2 子ども教育学科の共通教養科目に関する授業評価点
延べ人数 1年=55名、2年=71名

(2) 共通語学科目

[健康栄養学科]

健康栄養学科学生が受講する共通語学科目（英語、フランス語、ドイツ語、中国語）において7科目から回答を得た（図3参照）。延べ回答人数は、1年生が61名、2年生が15名、3年生は2名であった。回答者が10名以下の学年はグラフから除外した。

1年生は「授業内容」、「授業方法」、「総合評価」、「全体」の全項目が4.0以上であった。2年生は「授業内容」のみ僅かに4.0を下回ったが、その他の「授業内容」、「授業方法」、「全体」の3項目で4.0以上であった。

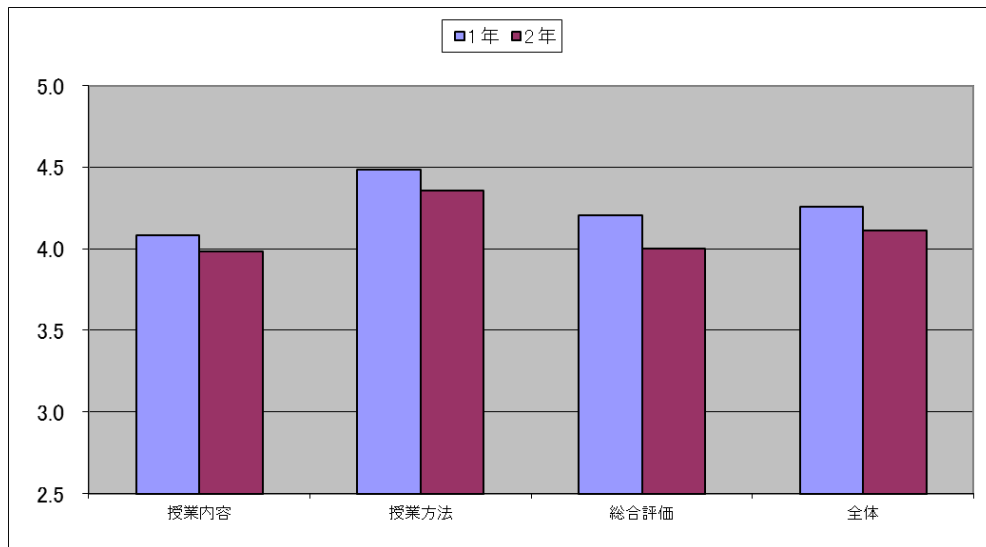


図3 健康栄養学科の共通語学科目に関する授業評価点

延べ人数 1年=61名、2年=15名

[子ども教育学科]

子ども教育学科学生が受講する共通語学科目（英語、フランス語、ドイツ語、中国語）において7科目から回答を得た（図4参照）。延べ回答人数は、1年生が64名、2年生が26名であった。

1年生、2年生とも全ての項目で4.0以上であった。

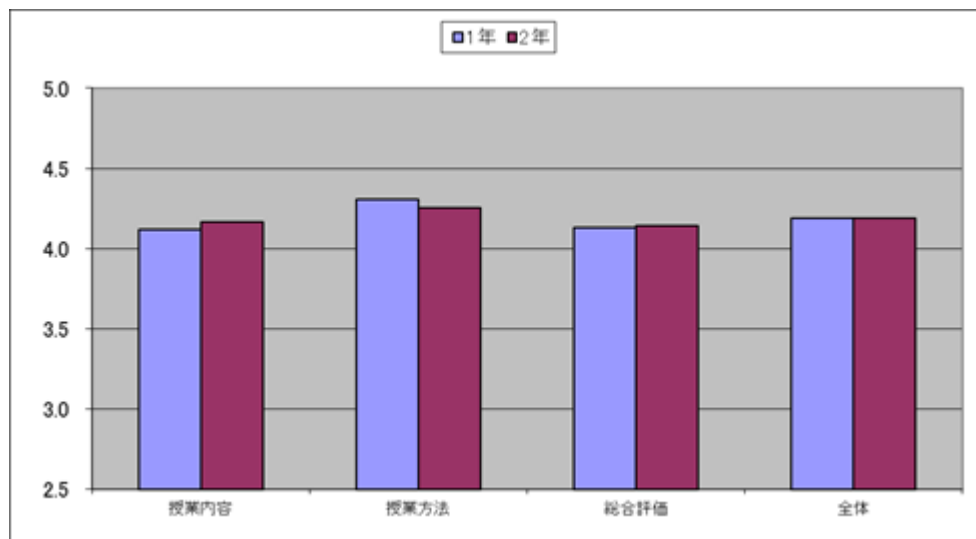


図4 子ども教育学科の共通語学科目に関する授業評価点

延べ人数 1年=64名、2年=26名

(3) 専門科目

[健康栄養学科]

健康栄養学科学生が受講する専門科目において 39 科目から回答を得た (図 5 参照)。延べ回答人数は、1 年生が 208 名、2 年生が 318 名、3 年生が 274 名、4 年生が 13 名であった。1~3 年生の 3 学年において全ての項目で 4.0 以上であった。4 年生は「総合評価」「全体」で 4.0 を下回ったが、「授業内容」、「授業方法」の 2 項目で 4.0 以上であった。

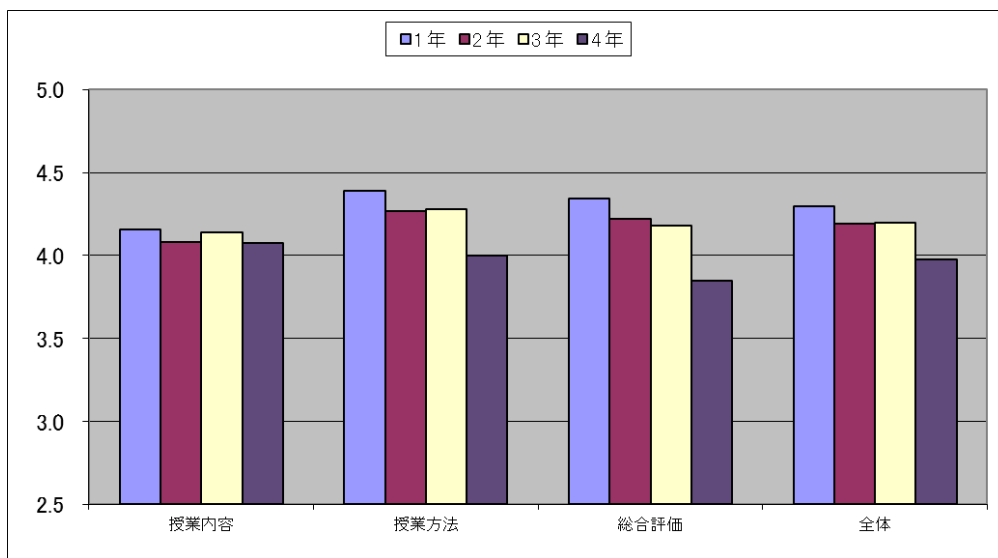


図 5 健康栄養学科の専門科目に関する授業評価点

延べ人数 1 年=208 名、2 年=318 名、3 年=274 名、4 年=13 名

[子ども教育学科]

子ども教育学科学生が受講する専門科目において、55 科目から回答を得た (図 6)。述べ回答人数は、1 年生が 325 名、2 年生が 255 名、3 年生が 313 名、4 年生が 24 名であった。

全学年において全ての項目で 4.0 以上であった。

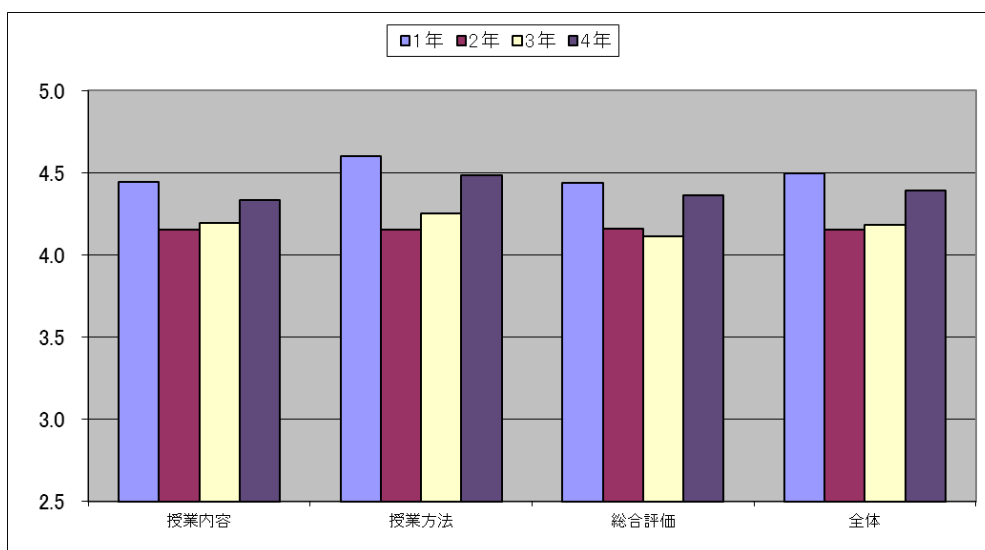


図 6 子ども教育学科の専門科目に関する授業評価点

延べ人数 1 年=325 名、2 年=255 名、3 年=313 名、4 年=24 名

(4) 科目の種類ごとによる比較

科目を以下の3つの観点から比較した。これらの観点は、授業に対する学生の意識の高さが授業評価の差異へ大きく影響すると考えられる。

- ・ 共通科目と専門科目
- ・ 必修科目と選択科目
- ・ 受講生が40名未満の科目と40名以上の科目

[共通科目と専門科目の比較]

図7は、共通科目と専門科目について対象学生を学科別に集計したものである。調査対象総科目数は101科目である。なお、学部共通科目11科目は両学科の学生がほぼ半数ずつ履修しているため、調査対象から除いている。

健康栄養学科では、共通科目の「授業内容」のみ僅かに4.0を下回ったが、それ以外の「授業方法」「総合評価」「全体」で4.0以上であり、専門科目は「授業内容」、「授業方法」、「総合評価」、「全体」の全項目が4.0以上であった。

子ども教育学科は、「授業方法」以外の設問において共通科目より専門科目で評価が高く、共通科目は全設問の平均評価点が4.0程度、専門科目は4.3程度であった。

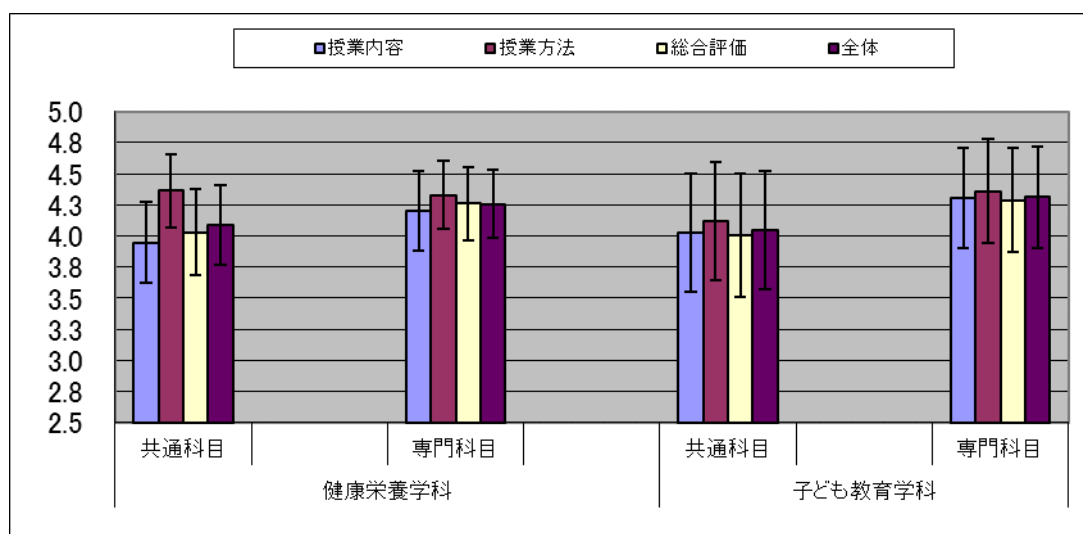


図7 共通科目と専門科目別の平均授業評価点 (±SD)
共通科目と専門科目数は、健康栄養学科で5、39科目、
子ども教育学科で5、52科目

[必修科目と選択科目の比較]

図8は、必修科目と選択科目について、対象学生を学科別に集計したものである。総科目数は101科目である。

健康栄養学科では、必修科目と選択科目の各設問の平均評価点は概ね4.1~4.4の範囲内であった。子ども教育学科では、必修科目と選択科目の各設問の平均評価点は概ね4.2~4.4の範囲内であった。

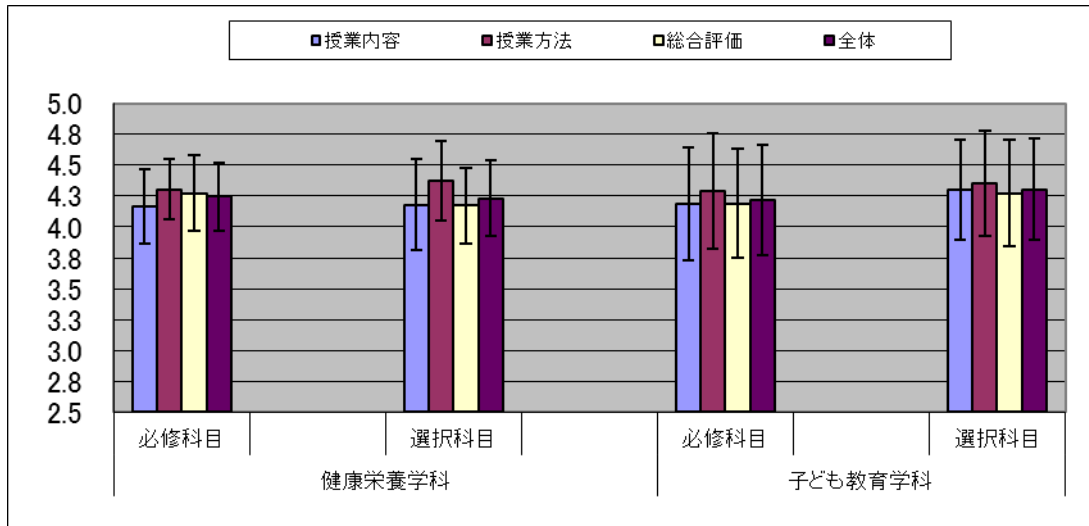


図8 必修科目と選択科目別の平均授業評価点 (±SD)

必修科目と選択科目数は、健康栄養学科で26、18科目、
子ども教育学科で9、48科目

[受講生数による比較]

図9は、受講生が40名未満と以上で学科別に各項目について集計したものである。総科目数は101科目である。

健康栄養学科での各設問の平均評価点は、40名未満の科目においてすべての項目で4.2以上、40名以上の科目において4.0~4.2の範囲であった。

子ども教育学科での各設問の平均評価点は、40名未満の科目においてすべての項目で4.3前後、40名以上の科目において4.1程度であった。

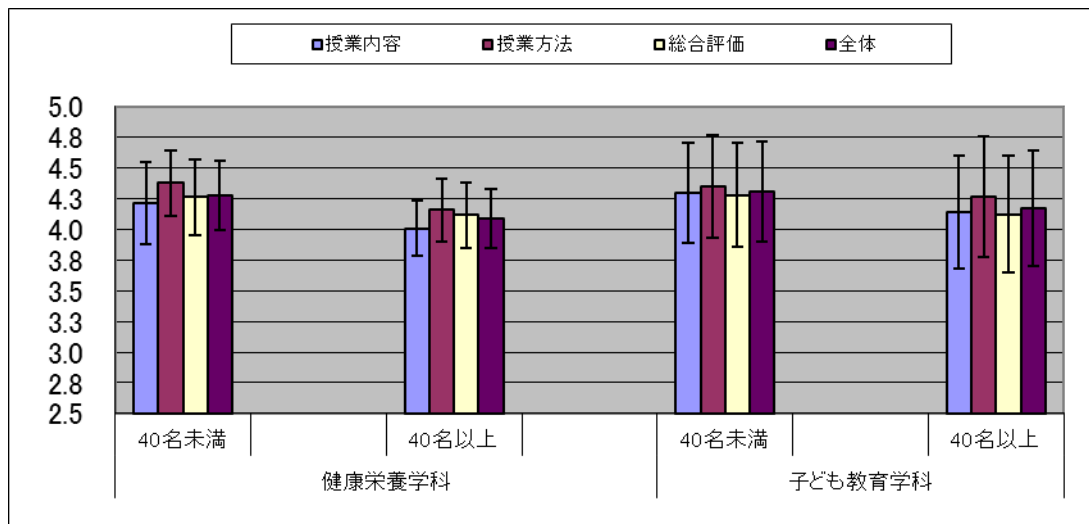


図9 受講生数による各科目の平均授業評価点 (±SD)

40名未満、40名以上の科目数は、健康栄養学科で35、9科目、
子ども教育学科で50、7科目

[科目個々の受講者数と評価点との関係]

図 10~12 は、学部全体および各学科での、受講者数と評価点との相関をみるために作成した散布図である。全体の相関が $r = -0.16$ であった。昨年度全体の相関は $r = -0.20$ であった。学科別にみると健康栄養学科は $r = -0.12$ 、子ども教育学科は $r = -0.34$ であった。

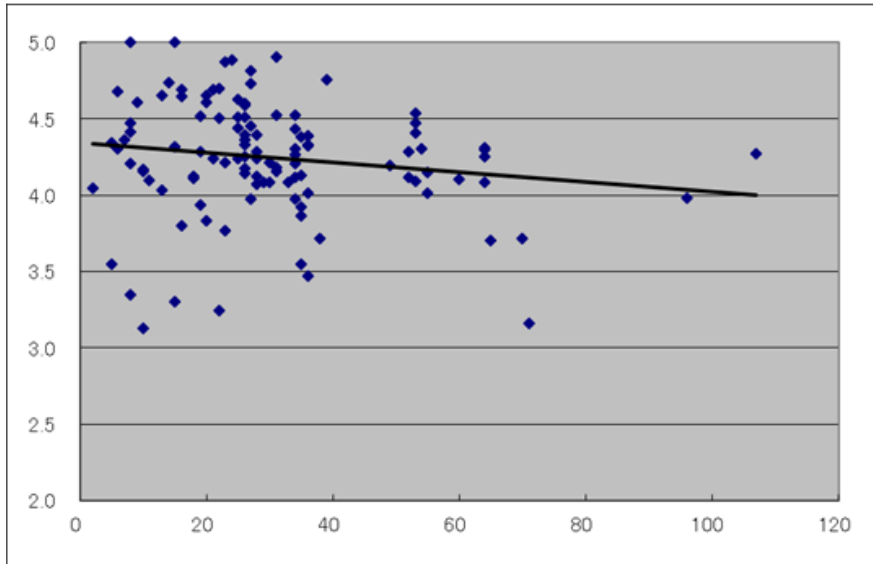


図 1 0 人間生活学部 履修者数（横軸）と授業評価点（縦軸）との相関
 $r = -0.16$ (n=112)

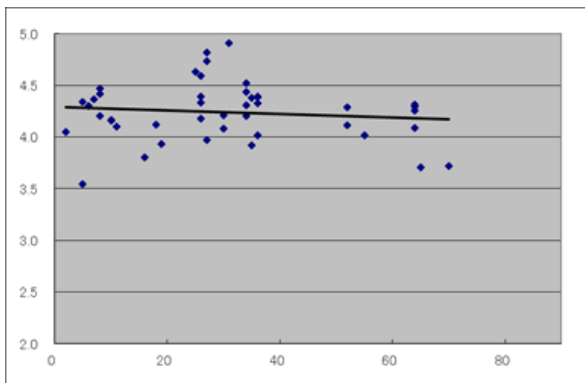


図 1 1 健康栄養学科
 $r = -0.12$ (n=44)

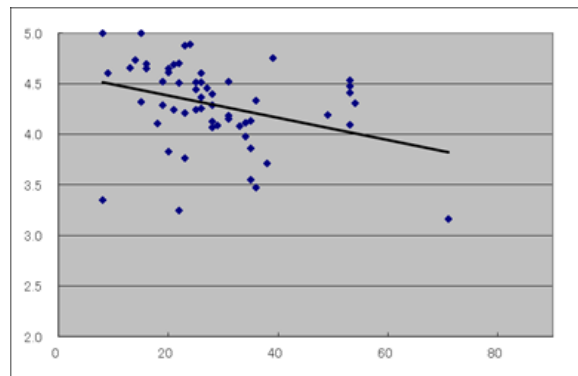


図 1 2 子ども教育学科
 $r = -0.34$ (n=57)

[各科目の回収率]

共通教養科目、共通語学科目および専門科目における授業評価アンケート回収率の平均を学科ごとに算出した結果を図 13 に示した。それぞれの科目数は、健康栄養学科が 2、3、39 科目、子ども教育学科が 2、3、52 科目であった。それぞれ分類された科目種別における回収率の平均は、健康栄養学科で共通教養科目が 100%であり、それ以外は 70%程度であった。子ども教育学科は、共通教養科目で 60%未満であった以外は、60~70%程度であった。

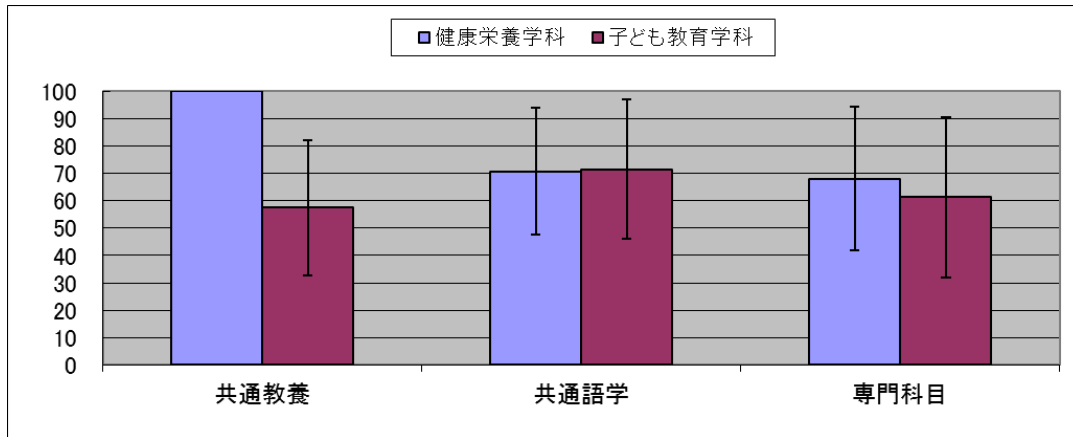


図13 各科目の平均回収率 (±SD) (%)
 それぞれの科目数は、健康栄養学科で2、3、39科目、
 子ども教育学科で2、3、52科目

(5) 学外での学修時間

[健康栄養学科]

図14は、健康栄養学科における授業外での学修時間を集計したものである。延べ回答数は1年生が371件、2年生が363件、3年生が280件、4年生が13件であった。授業外学修時間1時間未満の者は1年生で60%程度、2年生では40%程度、3年生で25%程度を占めたのに対して、4年生は7%程度であった。

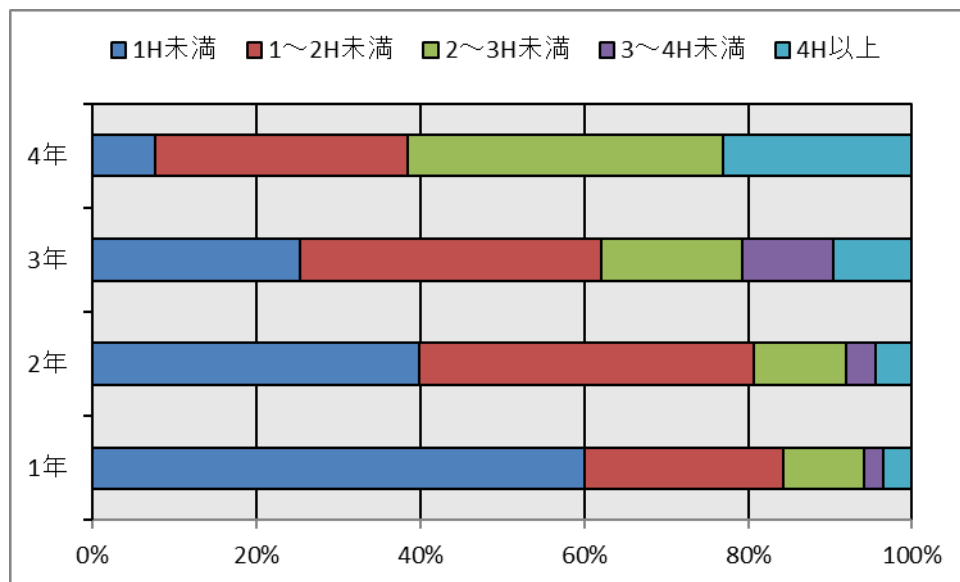


図14 健康栄養学科の授業外での学修時間

[子ども教育学科]

図15は、子ども教育学科における授業外での学修時間を集計したものである。述べ回答数は、1年生が444件、2年生が352件、3年生が318件、4年生が25件であった。1時間未満の比率が1年生で約50%、2年生で約40%、3年生で55%程度、4年生で約65%程度であった。

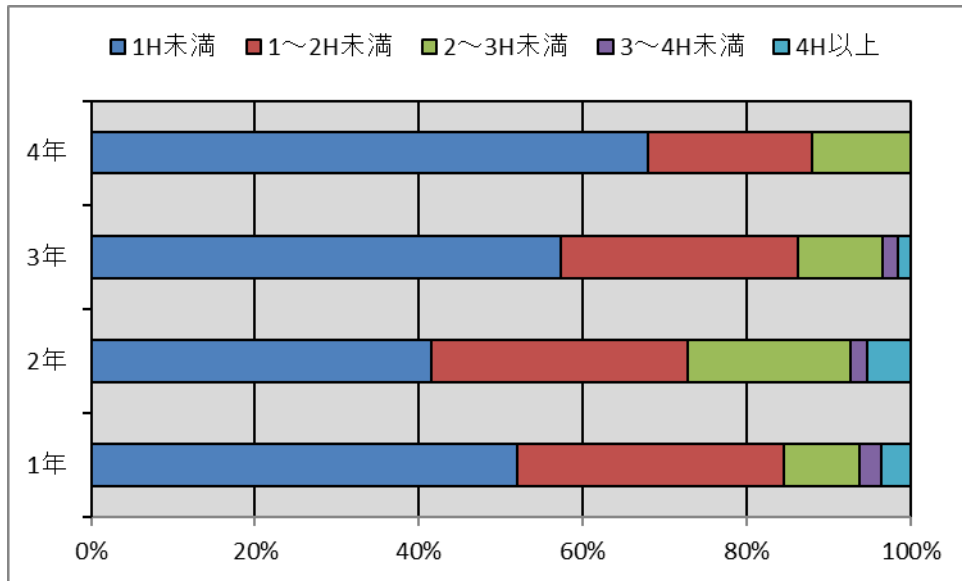


図15 子ども教育学科の授業外での学修時間

(6) 学修行動について

[健康栄養学科]

図16は、健康栄養学科での学修行動について比較したものである。「授業に関して積極的に質問等を行った」、「授業時間以外にも他の学生と一緒に学習に取り組んだ（グループワーク活動含む）」および「授業時間外に授業に関する資料を集めた」の項目は1年生において他の学年よりも平均評価点が低く、4年生では他の学年よりも高かった。

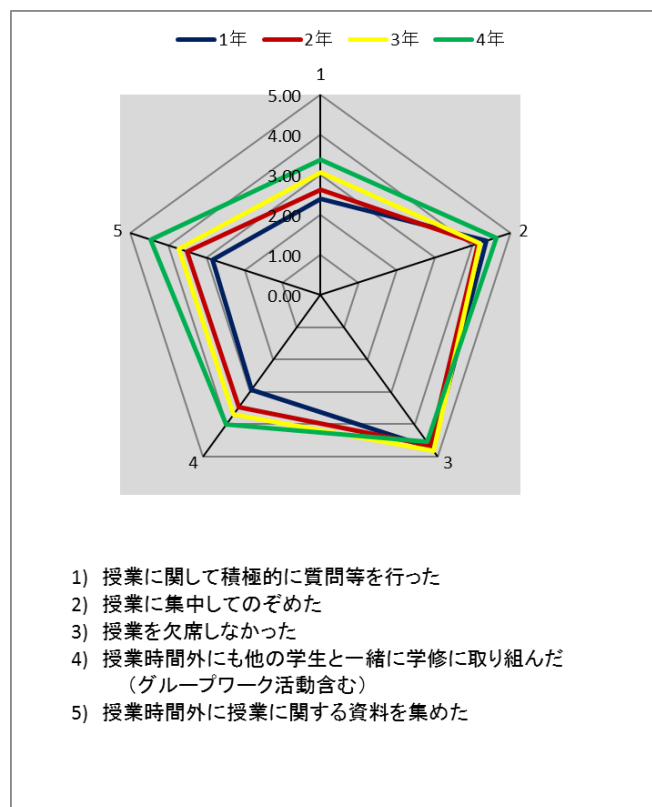


図16 健康栄養学科の学修行動

[子ども教育学科]

図 17 は、子ども教育学科での学修行動について比較したものである。4 年生の「授業を欠席しなかった」および「授業時間外に授業に関する資料を集めた」は他の学年よりも平均評価点が低い傾向がみられた。

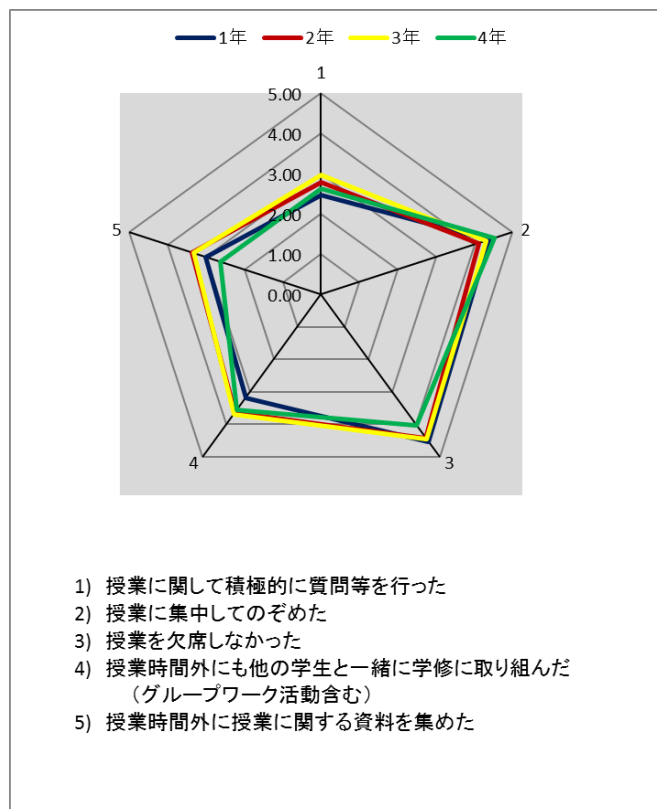


図 17 子ども教育学科の学修行動

(7) まとめ

令和 3 年度後期における人間生活学部の授業評価アンケート結果を様々な角度から集計し概観した。学外での 1 日あたりの平均的な学修時間は、昨年よりも 1 時間未満の学生が増加しており、これは特に子ども教育学科で顕著であった。本年度は遠隔から対面に戻ったことで、学修時間以外の通学にかかる時間が増えたこと等が関連していると考えられた。

また、学修行動のうち「授業に関して積極的に質問等を行った」や「授業時間以外にも他の学生と一緒に学修に取り組んだ (グループワーク活動を含む)」、「授業時間以外に授業に関する資料を集めた」等の主体的に学習に取り組む姿勢を確認する問について、学科によって 2 年生が 3 年生以降の学年よりも大きく低値を示した項目もあることから、遠隔授業で 1 年を過ごした 2 年生は受け身の学修行動が定着している学生がいる可能性も考えられる。今後は、そのような学生の積極性を引き出すことも必要ではないかと思われた。

今後もこのような調査を継続して実施し、学科や学年毎の特性を分析した結果を教員が共有し教授内容の向上に反映させていくことが重要と考えられた。

(報告：細田 耕平)